

令和3年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属桐が丘特別支援学校	校長名	下山 直人
幼児・児童・生徒数（R4.3.1現在）	130	学級数	31

2 教育目標等	
① 学校教育目標	教育基本法及び学校教育法、学習指導要領の示すところにより、肢体不自由及びその他の障害を併せ有する児童生徒に対して、個々の個性と障害の実態に応じた教育を行い、豊かな人間性を持ち、主体的に自立と社会参加を目指し、生涯にわたって自己の生き方を探求していく人間を育成する。
② 学校経営方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 「生き方探求」を支える児童生徒の「生きる力」の育成 2 社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求 3 働き方改革の推進
③ 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①「生き方探求」を支える児童生徒の「生きる力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標の児童生徒及び保護者との共有とその達成 ②社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求 <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい授業づくりの追求とその発信 ・自立活動の指導の在り方と事例の発信 ③働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・年間の変形労働制を活用したライフワークバランスの実現 ・外部資金の積極的な導入による実践研究の活性化

④ 前年度（令和2年度）
の成果と課題

① 「生き方探求」を支える児童生徒の「生きる力」の育成

コロナ禍において、児童生徒の学びを止めないよう、オンラインを活用した「桐が丘オンライン学校」に取り組んだ。また、登校再開後はGIGAスクール構想の実現を視野に、肢体不自由児が社会参加において、ICT機器を有効な手段として活用することを目指して取り組みを行った。

・個別の指導計画の目標の児童生徒及び保護者との共有とその達成を図る。

十分できた、概ねできた（保護者評価 71%）（教員自己評価 62%）

・子供にとってわかりやすい授業が行われていた。

十分できた、概ねできた（保護者評価 85%）（教員自己評価 81%）

感染拡大予防のため保護者の入構制限を行い通常のコミュニケーションがとりづらい環境となった。学校からの連絡を迅速に行うため、保護者との通信手段として「さくら連絡網」を導入した。

・校長は学校の教育方針や関連する情報を適切に伝えていたか。

十分できた、概ねできた（保護者評価 91%）（教員評価 94%）

令和3年度教育課程において、道徳の時間を確保した。引き続き教育課程の実践とカリキュラムマネジメントを行っていく。校舎Ⅱ期工事が完成し、Ⅲ期工事への対応を進める。

② 社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求

文部科学省事業により、研究協力校等12校との遠隔合同授業に取り組んだ。よりよい授業作りを全国ネットワークで展開するため、遠隔合同授業マッチングサイトを上げた。

施設併設学級に在籍する重度の知的障害を併せ有する児童生徒に対する教科指導の在り方について、単元開発を中心に校内で授業研究会を行った。遠隔合同授業及び障害の重い子どもの教科指導について、第49回肢体不自由教育実践研究協議会で報告を行った。「授業に生きる自立活動の実践」をテーマに自立活動セミナーをオンラインで開催した。当日の総視聴者数477名の参加を得た。

研究発信に関連して、学校ホームページ上での発信方法について引き続き検討する。

③ 実践研究の活性化

文部科学省事業2件（遠隔合同授業、消費者教育）の委託を受け、外部専門家からの助言を受けるなどして実践研究を行った。

実践研究を活性化するとともに、働き方改革に取り組むため、会議の回数を精選し会議時間の短縮等の改革を具体的に行うことで、各教員の意識改革を図った。

3 重点目標達成についての総括的評価

1 「生き方探求」を支える児童生徒の「生きる力」の育成

・個別の指導計画の目標を児童生徒及び保護者と共有し、その達成目標を80%以上と設定して実践した。年度末評価において、概ね～十分達成を含めると80%以上の達成であった。一方、障害特性に応じた指導、ICTの活用方法等については、改善の指摘もあり、個別の指導計画の活用、授業改善に引き続き取り組む必要がある。

2 社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求

・よりよい授業づくりの追求とその発信

遠隔合同授業マッチングサイトの運営(43校登録)とともに、全国の肢体不自由特別支援学校14校との間で、57時数の遠隔合同授業を実施した。遠隔合同授業の取り組みは、R3教育に係る学長表彰を受賞した。

知的教科の単元開発について、施設併設学級の授業研究会を活性化し、「障害の重い子供の各教科の授業づくり」(令和4年6月刊行予定)の出版に着手した。

・自立活動の指導の在り方と事例の発信

「自立活動ハンドブック」3巻を刊行した。自立活動研修の多様化を図り、自立活動実践セミナーの他、自立活動錬成塾をオンライン上で開講した。

・外部資金の積極的に導入による実践研究の活性化

文部科学省事業(ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方)を受託し、外部専門家からの助言を受けるなどして実践研究を行った。

科研費応募数5件のうち2件が採択された。桐が丘特別支援学校研究紀要への執筆(全校研究2本、グループ研究2本)の他、肢体不自由教育関係雑誌に実践等が掲載された。

3 働き方改革の推進

・年間の変形労働制を活用したライフワークバランスの実現

会議の回数、長期休業期間の活用を含めた開催時期の精選、会議時間の短縮を継続して実践した。個人別勤務管理表は全教員が毎月提出し、自分の働き方を管理する意識の向上に努めた。教員に対するアンケートを実施し、昨年度に比べ、働き方改革が進んでいると思う教員が8~9割、授業準備の時間が増加したと思う教員が8割以上の結果であった。

4 令和4年度の学校課題

1 「生き方探求」を支える児童生徒の「生きる力」の育成

①新しい時代を生きる資質・能力を育む教育の充実

②新校舎活用の在り方等を検討し「桐が丘新生プラン(仮)」を策定

2 社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求

①よりよい授業づくりの追求とその発信

②自立活動の指導の在り方と事例の発信

③外部資金の積極的に導入による実践研究の活性化

3 働き方改革の推進

①年間の変形労働制を活用したライフワークバランスの実現

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- 1 「生き方探求」の場にふさわしい桐が丘教育の検討と実践
 - ①新しい時代を生きる資質・能力を育む教育の充実
 - ・個別の指導計画にICT活用の目標の位置付け（本校、施設3~5組）
 - ・児童生徒の学習や生活上の悩みに応える場の整備と利用促進
 - ②新校舎活用の在り方等を検討し「桐が丘新生プラン（仮）」を策定
 - ・検討ワーキンググループを設置し、課題の整理、新生プラン素案の作成
- 2 社会の変化や関係者のニーズを踏まえた教育実践の探求
 - ①よりよい授業づくりの追求とその発信
 - ・遠隔合同授業マッチングサイト活用促進と遠隔合同授業の質の向上
 - ・知的教科の授業づくりの深化と積極的な発信
 - ②自立活動の指導の専門性向上と対外研修の推進
 - ・当校における自立活動研修の充実
 - ・当校が提供する自立活動研修の専門性に応じた研修の実践と評価（自立活動セミナーと自立活動錬成塾の充実と今後に向けた検討）
 - ③外部資金の積極的な導入による実践研究の活性化
 - ・科研費等外部資金への応募、研究紀要等への論文掲載等10件以上
- 3 働き方改革の推進
 - 年間の変形労働制を活用したライフワークバランスの実現
 - ・個人別勤務時間管理表による勤務時間管理意識の定着

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- ・研究紀要第57巻
- ・全国特別支援学校肢体不自由教育校長会編著『肢体不自由教育実践・授業力向上シリーズ』（ジアース教育新社）への事例提供
- ・『肢体不自由教育』（日本肢体不自由協会）への論説執筆、事例提供
- ・筑波大学附属桐が丘特別支援学校・自立活動研究会（ジアース教育新社）「よく分かる！自立活動ハンドブック」第1巻から第3巻の発刊

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 3 年度

学校名	筑波大学附属桐が丘特別支援学校
-----	-----------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	①4月から高等部、9月から小学部、中学部の児童生徒にタブレット端末が整備された。大型モニター、電子黒板を全教室に配置し、全学級でICT機器、教材を活用した授業を行った。 ②デジタル教科書、PDF 拡大教科書の活用、Google クラスルームを学習に活用した。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、登校自粛を行った際に、オンラインによる授業が受けられるようにした。
1-1-8	学習指導要領等の基準ののっとり、児童生徒の発達段階に即した指導に関する状況	学校全体で、各教科を中心とした研究体制を設けて、年間指導計画、授業実践の検討を行った。
1-1-99	各教科等の授業の状況	個別の指導計画の目標設定（評価可能な目標となっているか）の検討を継続し、個別の指導計画の作成、評価のためケース会で検討を行った。個別面談等を通して、保護者との目標の共有化を図った。保護者評価による達成状況について、十分～概ね達成の評価を約8割の保護者から得ることができた。一方で、十分ではなかったというコメントもあった点を踏まえ、検討を行う。
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	第4期中期目標、中期計画を踏まえ、引き続き、桐が丘特別支援学校の存在意義を明確にした将来構想の検討と実現を図る。
1-2-8	学習指導要領等の基準ののっとり、児童生徒の発達段階に即した指導の状況	知的障害を併せ有する肢体不自由児の各教科における単元開発について、施設併設学級を中心に、単元開発方法及び、単元モデルの検討を継続した。施設併設学級の実践は、第50回肢体不自由教育実践研究協議会で報告するとともに、約20編の単元例をまとめ「障害の重い子どものための各教科の授業づくり」として、出版予定である。
5-1-3	法定の学校安全計画や、学校防災計画等の作成・実施、体制整備の状況	校舎改築におけるⅡ期工事の完成により、全学部にわたって新校舎のホームルーム教室使用が開始された。学校安全計画の点検を行い、防災計画を修正し、避難訓練を計画した。板橋警察署の協力を得て、避難経路、不審者対策用のさすまたの設置場所などの助言を踏まえて防災、防犯計画を作成することができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、全校での避難訓練は中止し、学部ごとに実施した。
6-1-4	個別の指導計画や教育支援計画の作成の状況	①指導例を10事例以上検討しモデル化する。 ②自立活動セミナー、書籍等を通し発信する。
6-1-99	特別支援教育	附属学校教育局に医療的ケア運営協議会の設置について相談を行った。医療的ケア実施体制について、手続きを整理し、学校保護者専用ホームページ上に公開した。

7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス監督の状況	個人別勤務時間管理表を用いて1年分の出勤計画を作成し、月ごとに確認、修正を行ない、各自が自身の働き方を考え、勤務時間を管理できるようにした。働き方改革の実施について、教員へのアンケートを行った結果、約7割の教員から働き方改革の結果、働きやすさ、働きがいを感じたという回答があった。
7-1-7	学校運営のための諸事務等の情報化の状況	各部、分掌の1年間の取り組みを1冊にまとめ、校内の各教員が必要に応じて確認できるようにするため、「桐が丘の教育」を編集した。働き方改革と関連した会議縮減に伴って、行事实施にあたっての起案の仕組みについてメーリングリスト等を活用した工夫を行った。
8-1-2	校内における研修の実施体制の整備状況	①自立活動ガイドラインの評価に基づき、修正を行うとともにより適切で明確な指導につながるよう、指導体制をとった。 ②自立活動プロジェクトが企画・推進する研修を継続し、教員個々の力量を高めるとともに校内の研修体制のプログラムを構築し、計画的に実施した。
10-1-1	学校に関する様々な情報の提供状況	①学校の取り組みについて、学校だよりを発行することができなかった。保護者用の情報公開として、保護者専用のホームページを立ち上げ、各行事の動画や情報教育等学校の取り組みを定期的に公開した。 ②保護者への通信手段として、さくら連絡網を活用した。新型コロナウイルス感染症関連の情報など、即時的な発信に効果的に活用することができた。各学級、学年の連絡についても活用し、効率よく保護者連絡を行うことができた。
10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	遠隔合同授業マッチングサイトをHP上に設置し、全国の学校との接続に活用した。(マッチングサイトは、ID登録制とし、マッチングサイトに関する情報公開をHP上に実施) 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、学校公開をHPを活用したオンデマンド方式、双方向のオンライン方式など、状況に応じた工夫により実施した。
14-1-1	入学者選抜	令和3年度より、本校においても知的障害を併せ有する肢体不自由児を対象とした。重点化した指導の実践を行い、教育課程及び指導体制を検討し、当校に対する教育的ニーズに対応できるよう、カリキュラムマネジメントを継続していく。高等部の定員充足のため、学校公開、情報提供を工夫していく。
14-1-3	先導的教育研究	①遠隔合同授業マッチングサイトを用いた、全国の肢体不自由特別支援学校とのネットワーク構築の取り組みを継続し、52校の登録のもとで遠隔合同授業を行った。本取り組みは、令和3年度の学長表彰を受けた。 ②「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究」を受託した。オンラインを活用した自立活動に関する教員研修の取り組みである「自立活動錬成塾」を行った。1年間の研修アンケートでは、錬成塾の有効性を実感する回答を得た。